

ニッカン 宅配プラス1

あの人に聞きたい 著名人はロクイハクビ

田中康夫氏

作家で元衆院議員の田中康夫氏(58)が、17年ぶりとなる長編小説「33年後のなんとなく、クリスタル」(河出書房新社)を発表した。100万部を超えるベストセラーとなった81年「なんとなく、クリスタル」の登場人物たちの33年後を描いた。33年で変わったものと変わらないものを聞いた。

ヤスオ

東京に暮らす女子大生を主人公に、80年代の世相、風俗を描いた「なんとなく、クリスタル」はタイトルが流行語にもなった。文芸賞も受賞した。

本人を思わせる「ヤスオ」が登場する「33年後の」を書くことになったのは、いろいろなタイミングが重なったからだという。

「去年50回を迎えた文芸賞の記念号で『何か書いて』と編集者に以前から頼まれていたんです。でも、当時は永田町の住人でしたから、時間的にも精神的にも難しく、短編

33年後の

◆田中康夫(たなか・やすお)1956年(昭31)4月12日、東京都生まれ。少年時代を長野で過ごす。松本深志高から一橋大卒。在学中に書いた「なんとなく、クリスタル」がベストセラーに。95年の阪神淡路大震災ではボランティアで避難所回りを続け、神戸空港建設反対運動など住民運動にも参加。00、06年に長野県知事。07、09年参院議員、09、12年衆院議員。

81年ベストセラー続編

も深く考えていたただける物語の展開にするのが難しかったですね」

1年かかって書き上げた。4年前に結婚した恵さんの力も大きい。

「もともと遅筆で、なかなか言葉が思い浮かばないとピリピリしてしまう。そうした僕と付かず離れず接しながら、手のひらの上で遊ばせてくれる。なあって、のろけですわね」

恵さんが友人と一緒に描いた書店店頭用ポップを見せて



夫人が書いた新刊本のポップを手にする田中康夫氏(撮影・山崎哲司)

くれた。「33年前、あなたは何をしましたか。」というコピーと、作品にも登場する田中氏の愛犬ロッタのイラストが書いてある。

「実はコピーも家内が思い付いたんです」

長野県知事時代と比べるとずいぶん雰囲気が変わらなくなった。

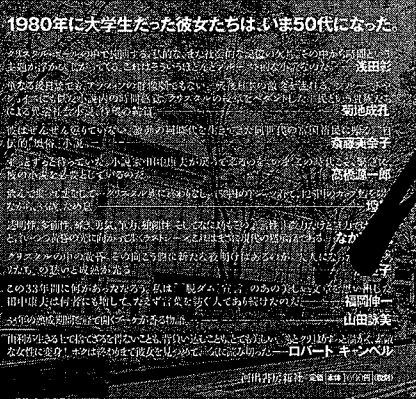
「数字に換算できない社会や家族の人間関係、文化や伝統こそが大事」

言葉に実感がこもっている。

なんとなく、クリスタル

33年後のなんとなく、クリスタル

田中康夫



田中康夫氏の「33年後のなんとなく、クリスタル」

批判受け

華やかな生活をする若者が登場する「なんとなく」は、物質主義、ブランド主義という批判も受けた。

「揶揄(やゆ)した人たちも、新聞の書評委員をしてい

るから、文壇バーで女性から声を掛けられる確率も高かったりしてね。20代半ばの僕は、その精神的ブランドと、本に登場する物質的ブランドと結局は一緒だろ、と思いましたけどね(苦笑い)」

「なんとなく」を再評価する

50代になった登場人物は前に向かって歩いて行く

「実は意外と不器用で、セルフプロデュースが苦手なんです。でもこの巨大な消費社会の中で誰もが、先行きに不安を感じている。結婚、離婚、再婚、婦人科系の病気、子どもや夫との間合い。その中で50代になった登場人物の彼女たちは『微力だけど無力じゃない』と信じて前に向かって歩んでいく。そうした物語です」

また「クリスタル」を書くことがあるのか聞いた。田中氏は「うん、空威張りな今の羊頭狗肉(くにく)政治で、果たして日本が生き残れるか分からないけどね」

だが、自分は変わらないという確信を感じた。

【小林千穂】

私は変わっていない



声も多い。膨大な注釈の最後に、人口に関するデータが付けられていた。当時ほとんど注目されなかったが、人口減少と加速する高齢化社会を予想していたと今になって言われている。33年後の今、少子化も高齢化も予想を大きく上回り、生活環境も激変した。

「『なんとなく』が出た翌年に『笑っていいとも』が始まり、僕も金曜日に出演していた。自動車電話は便利ですよとアルタの楽屋で話したら、タモリさんに『せいたくだなあ』と言われました。タモリさんでさえ自動車電話を付けていない、そんな時代。今や人口より携帯電話の契約数の方が多という時代。でも夜中に届いたLINEを未読で登校すると子供がいじめに遭ったりする。一体、私たちは便利になったのか、逆に束縛されて息苦しくなったのか、何とも分からない厄介な『豊かさ』の空気でしょう」

時代はさまざまに変化したけど、自分のことを「昔から変わっていない」と語る。

「実は意外と不器用で、セルフプロデュースが苦手なんです。でもこの巨大な消費社会の中で誰もが、先行きに不安を感じている。結婚、離婚、再婚、婦人科系の病気、子どもや夫との間合い。その中で50代になった登場人物の彼女たちは『微力だけど無力じゃない』と信じて前に向かって歩んでいく。そうした物語です」